

コロナ禍を超えて ～教育のパラダイムシフトを目指して

宇佐川 毅 熊本大学 理事・副学長

NII 【第23回】4月からの大学等遠隔授業に関する
取組状況共有サイバーシンポジウム

2020年12月25日 12:11 JST

2020年2月までの準備状況



Kumamoto University

- 2002年
全学必須の情報リテラシ教育Blended
型で開始
(e-Learningシステム全学展開)
- 2004年
Instructional Designを中核とした大学
院「教授システム学専攻」を開設
- 現在、毎年約 6000 科目を開講
しかし、前年度末までに、LMS上の
rich contents は、、、



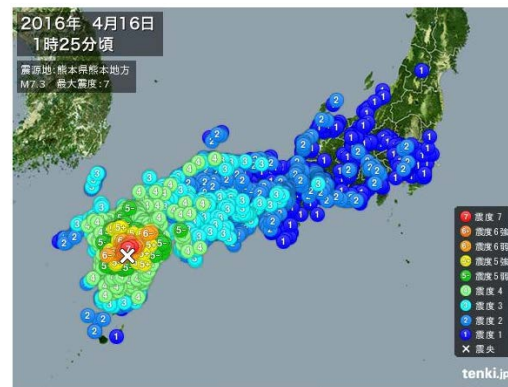
学内のInstructional Designの専門家はいても、全学的にみると教員の関心は限定的

急激な変化 — 2016年の地震でも



Kumamoto University

- COVID-19による状況の変化 と 2016年の地震(4/14-16)による影響を比較し、対応を検討



研究室の状況: 完全な機能停止



建物への立ち入り規制

COVID19 vs 熊本地震



	COVID-19	熊本地震
When	After March 2020	April 15th, 2016 (第1週の講義終了後)
ICT 環境	学務システム・LMS は <u>Single-Sign-On(SSO)</u> で利用可能	==
Readiness - 学生	新生には、リエンテーションもできていない	!= (1週目は終了)
Readiness - 教員	本当MUST だったが、、、	!= (必須ではない)
いつ終わるか	不明。2021年度も覚悟が必要。	!= (想定可能)
著作権	包括的 (SARTRAS)	個別対応

Issue #1

Issue #2

Issue #3

Issue #1 & #2 : Readiness



Kumamoto University

Issue #1

- #1: 1年生は、大きな問題なく対応
キャンパスへの立ち入りは規制あり。1年生はSSOへのアクセス方法を知らない状況だったが、短時間のオリエンテーションで対応してくれた。

Issue #2

- #2: 教員は新しい生活様式への対応に苦勞した方も少なくない
 - zoomでzoomの使い方を講習会を開催。
 - 本シンポジウムに模して学内版シンポジウムを開催。
 - zoom-help-desk を開設し教職員・学生を支援。



- 制約:
 - 教員の負担は確かに大きかった。
- しかしメリットも実感：
 - 同期型講義 (ZOOM) - 学生からの質問の増加(チャット利用)や投票機能によるClickerの実装などで双方向性の確保。
 - 非同期型講義 - 基本的にZOOM講義は、VODサーバで配信。学生からは、自学自習等で活用できているとの声。
- 講義ビデオは宝山！
 - 講義ビデオは、次期講義での活用のみならず、大学の教育資源のSHOW-CASE にもなる。

大量の教育データ～Learning Analyticsの対象

例：VODサーバーの登録件数等

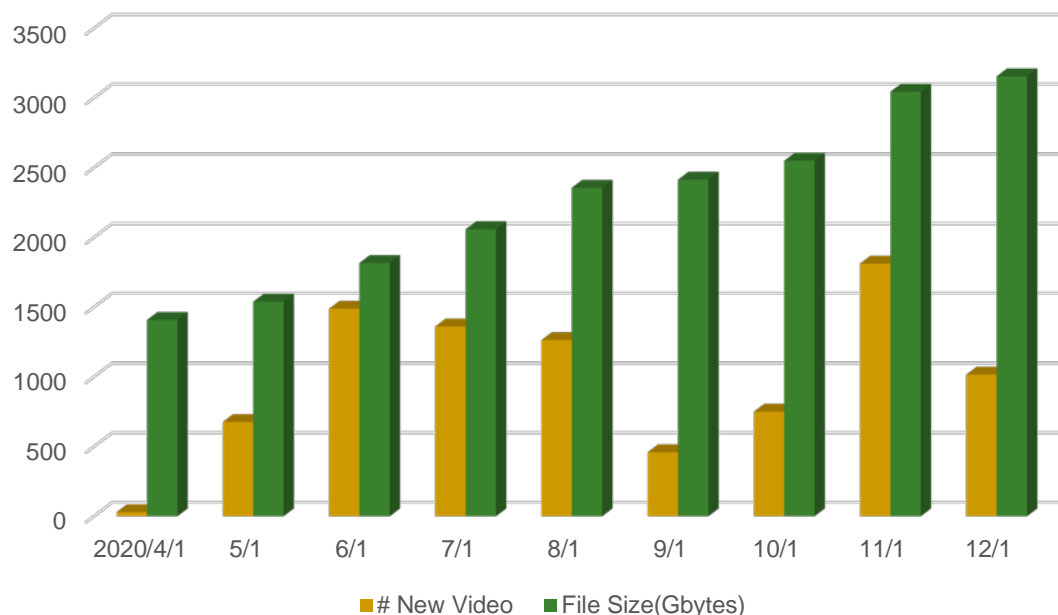


■ 4月以降のzoom講義数

- 第一ターム(4月～6月)
2328科目中 1222科目が Zoom (52%)
- 教養教育は100%

■ 毎月1,000本以上の講義ビデオ

9ヶ月で1.6 Tb,
(コロナ以前10年:
1.4 Tb)



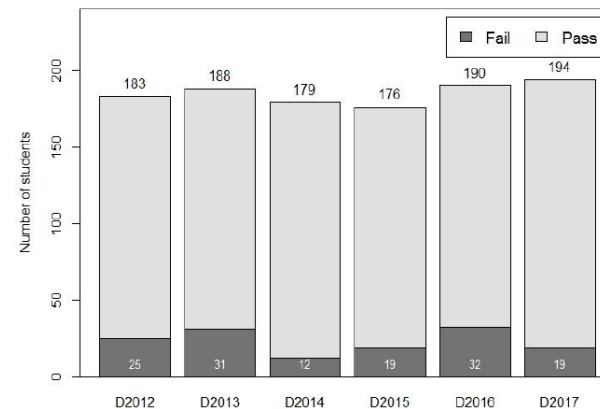
この講義ビデオを活用・分析しない手はない!

例：個々の学生のケアーを目指し

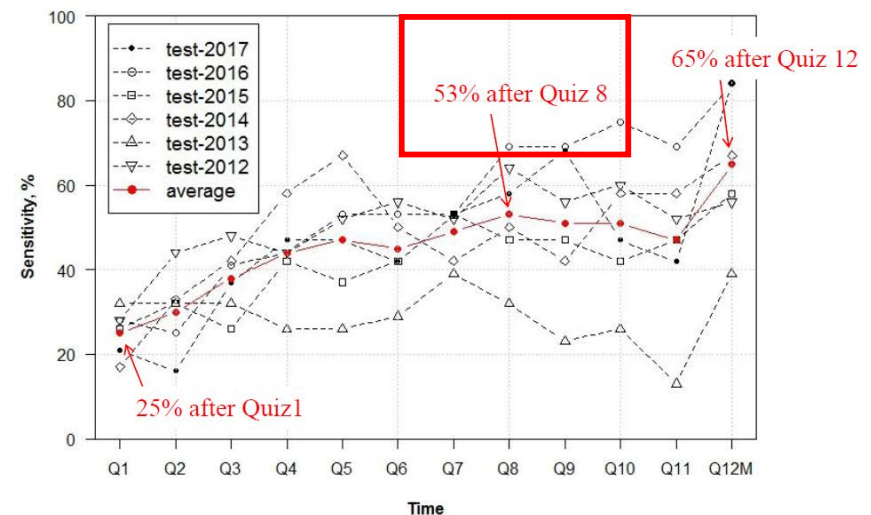
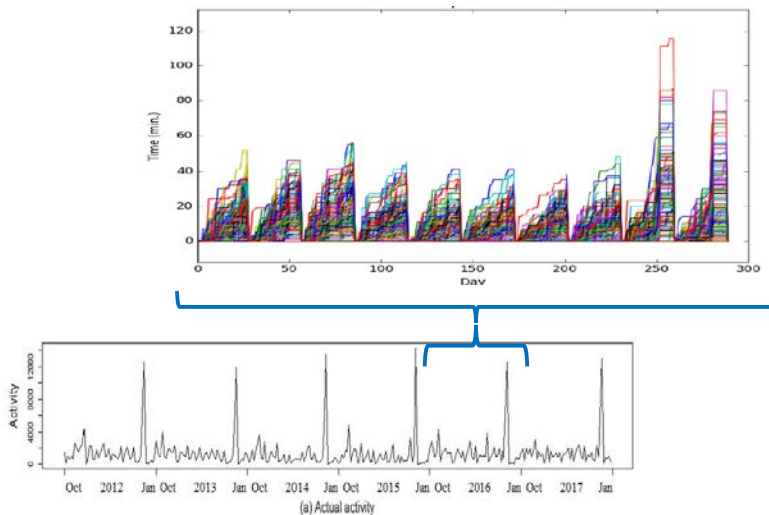


Kumamoto University

- 2年生向けの必修科目
(毎週online QUIZ;
6年分:40万件程度のlog)
- 不合格者する可能性のある学生に、少しでも早く声をかけたい!



Average of 12% failure rate



まとめに代えて



Kumamoto University

- このパラダイム・シフトを成功させるためには、
 - 教員や学生への支援
 - 教育の質の向上のための継続的な取り組み
 - 新しい生活、新しい教育に向けた情熱が必要だと感じています。



貴重な機会をいただき、ありがとうございました。